

(6)小児がんの進捗状況について

項目	内容
平成29年度の活動報告	<p>(1) 研修教育</p> <p>① 看護部主催研修会の実施(7/22, 9/16, 10/7, 11/18)</p> <p>② 兵庫県内の小児がん拠点病院及び小児がん診療病院、ならびに小児研修施設に勤務する小児科医、小児外科医、放射線科医、病理医、看護師を対象とした研究会・講習会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2017/6/2兵庫県小児血液腫瘍症例検討会 ・2017/11/24兵庫県小児がん治療講演会 ・2018/1/12 兵庫県小児tumor board <p>(2)情報連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専任職員の国立がんセンターでの研修受講によるがん相談支援室の機能向上 ・兵庫県がん・生殖医療ネットワーク事業への参加。同事業との連携によるAYA世代がん患者の妊孕能温存処置の実施。 <p>(3)がん登録:専任職員を用いた地域がん登録の実施。</p> <p>(4)緩和医療:緩和医療チームの活動促進、緩和ケア講習会の受講促進。</p> <p>(5)がん地域連携パス:小児がん拠点病院及びがん拠点病院間のがん地域連携パス実施状況の調査</p> <p>(6)医療連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小児がん拠点病院近畿ブロック連携会議 10/7, 2/17(予定) ・兵庫県小児がん診療病院連携会議 6/2 ・中四国小児がん診療病院との連携 TV会議(月1回) 連携会議 1/6(於:広島大学) ・兵庫県立神戸陽子線センターとの連携(12月稼働開始) 週1回のtumor boardの開催 <p>(7)情報の収集提供体制:小児がん患児の保護者を対象とした「がんサロン」の開催</p> <p>(8)臨床研究 JCCGを中心に、国際共同臨床試験への積極的参加: IntReALL試験, AHEP0731試験</p> <p>(9)AYA世代(高校生)の教育支援(別紙資料)</p> <p>(10)国際協力推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開発途上国における小児がんの診療効力強化(平成29年度医療技術等国際展開推進事業) <p>(11)近畿小児がん血液研究会・小児がん拠点病院近畿ブロック連携協議会(2月17日:予定)</p> <p>(12)小児がん等サポート検討会(主催:兵庫県医師会、兵庫県がん診療連携協議会、神戸大学7大学連携個別化がん医療実践者養成プラン:3月31日予定)</p>
平成30年度の活動計画及び今後の検討課題等	<p>(1)研修教育:看護研修会の継続実施。地域内研究会・講習会の継続実施(別紙参照)</p> <p>(2)情報連携:地域内がん相談支援室との連携による機能拡大。兵庫県がん・生殖医療ネットワーク事との連携によるAYA世代がん患者の妊孕能温存処置の拡大・促進</p> <p>(3)がん登録:専任職員を用いた地域がん登録の継続実施。</p> <p>(4)緩和医療:緩和医療チームの活動促進、緩和ケア講習会の受講率向上。</p> <p>(5)がん地域連携パス:小児がん拠点病院及びがん拠点病院間のがん地域連携パス実施状況の調査</p> <p>(6)医療連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小児がん拠点病院・小児がん診療病院との連携会議・TV会議 ・兵庫県立神戸陽子線センターとの連携 <p>(7)臨床研究:JCCGを中心に計画されている国際臨床試験への積極的参加: ASIA DS-ALL2016試験 小児悪性腫瘍に対する陽子線治療の観察研究の実施</p> <p>(8)AYA世代(高校生)の教育支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校生に対する院内学級設立に向けた基盤整備 ・ボランティアなどを活用した高校生に対する教育支援事業の実施 <p>(9)国際協力推進事業(平成29年度医療技術等国際展開推進事業(NCGM事業)) 開発途上国における小児がんの診療効力強化として日越小児がん診療従事者の交流・促進</p>

長期入院中の高校生に対する学習支援

1, 背景

政府の第二期がん対策推進基本計画等に基づき、平成 24 年度に「小児がん拠点病院」の指定が行われたことを受け、文部科学省初等中等教育局特別支援教育課長から各都道府県・指定都市教育委員会教育長及び各都道府県知事に対して「病気療養児の教育の充実について」の新通知がだされ、高等学校を含む病気療養児への指導充実を図ることが要請された。そこで兵庫県立こども病院においても、長期入院中の高校生に対する学習支援に対して多角的に取り組んでいる。

2, 長期入院中の高校生に対する学習支援の具体的取組み

(1) 兵庫県担当部局との折衝

兵庫県病院局／兵庫県教育委員会事務局高等教育課／同特別支援教育課担当者と面談し、現況報告及び課題解決のための意見交換を行った。現況として高校在籍中でがん診療のため療養を行っている生徒については、制度として原籍校が病院を訪問し教材を配布するなどの個別の実績はあるものの、体系的な教育支援の仕組みはなく、原籍校の校長の独立した判断／権限に委ねられている。以下の制度設計を中心に、問題解決を図っていくことが協議された。

	条件／課題
特別支援学校高等部/院内学級の設置	15 人以上の生徒確保が必要。特別支援学校としての単位認定が可能。
在籍校からの教員派遣	在籍校校長の判断により可能。神奈川・大阪方式でも通常単位の 1/5 程度しか取得できない。
通信制高校への転籍	原籍校への再転籍には編入試験、学校長の許可が必要。
学習ボランティア	単位取得はできない。

(2) 長期入院中の高校生に対する遠隔授業の実施

従来の原籍校の個々の判断で行われる添削指導及び面接指導に加え、オンデマンド型の授業を新たな導入。インターネット授業を受ける高校生の環境整備のために、病棟における通信制限の院内規則の緩和を行った。

(3) ボランティアを活用した長期入院中の高校生に対する教育支援

神戸大学医学部学生を中心としたボランティア医学生有志による対面型の教育支援の導入。ボランティア学生のリストアップを完了。

女性がん患者に対する卵巣組織凍結保存の試み

1, 兵庫県がん・生殖医療ネットワーク設立について

AYA 世代の Cancer survivor の QOL 向上特に妊孕性向上のために治療前の卵巣組織保存が国内の一部施設で実施されつつある。日本がん生殖医療学会の呼びかけで、兵庫県でも 2016 年 1 月に兵庫医大産婦人科柴原教授を代表世話人として兵庫県がん・生殖医療ネットワークが設立され、組織保存ネットワークの枠組みが開始された。学会提供情報では、初潮前の若年女性であっても卵巣保存の適応になり得、治療後に卵巣組織の自家移植を受けることにより 30-40%程度の挙児が期待できる。ただし現時点では卵巣組織保存に 60 万円強、自家移植、維持費用と併せて 150 万円程度の自己負担が発生する。滋賀県では平成 28 年 4 月 1 日より、がん患者が妊孕性温存療法を受ける際に医療補助(がん治療医と生殖医療医がともに申請を認め、証明証を発行した場合にのみ男性に対しては 2 万円、女性に対しては 10 万円の補助が、生涯に一度支給される)が助成されている。

2, 医療従事者を対象とする講演会の実施・参加

3, 兵庫県こども病院における卵巣組織保存の取り組み

兵庫県がん・生殖医療ネットワーク設立と事業開始に伴って、当院でも AYA 世代の女性患者を中心に化学療法開始前あるいは造血幹細胞移植実施前の卵巣組織保存に関する情報提供を開始した。希望者に対して化学療法開始前(白血病等については造血幹細胞移植実施前)に兵庫医大産婦人科において採取を実施した。2018 年 1 月末時点で 5 名(下表)に対して卵巣組織保存を実施している。

	原疾患	年齢	採取時期
1	卵黄嚢癌(再発)	11 歳	化学療法実施前
2	未分化肉腫(初発)	15 歳	化学療法実施前
3	骨髄異形成症候群(再発)	14 歳	造血幹細胞移植実施前(寛解期)
4	急性リンパ性白血病	15 歳	造血幹細胞移植実施前(寛解期)
5	ユーイング肉腫	16 歳	化学療法実施前

兵庫県立粒子線センター／神戸陽子線センターとの連携

1) 兵庫県粒子線治療センターとの連携実績

No.	年齢	性別	疾患	種類	線量 (Gy)	分割	鎮静
1	8	女	上衣腫	陽子線	54	30	
2	19	女	上衣腫	陽子線	50.4	28	
3	7	男	上衣腫	陽子線	54	30	
4	12	男	頭蓋咽頭腫	陽子線	50.4	28	
5	8	女	頭蓋咽頭腫	陽子線	54	30	
6	6	女	脊索腫	陽子線	64.8	36	
7	6	男	脊索腫	炭素線	60.8	16	あり
8	14	男	骨巨細胞腫	炭素線	70.4	32	
9	6	男	神経芽腫	陽子線	19.8	11	
10	1	女	横紋筋肉腫	陽子線	36	20	あり
11	2	女	横紋筋肉腫	陽子線	24	16	
12	10	女	悪性ラブドイド腫瘍	陽子線	50.4	28	
13	10	女	卵黄嚢癌	陽子線	45	25	
14	16	男	ホジキンリンパ腫	陽子線	36	20	

2) 神戸陽子線センターとの連携

2017年11月12日 開院式

2017年12月1日 開院（診療開始）

2018年3月1日 要鎮静例を含む小児例に対する保険診療開始

平成 29 年度 「小児がん看護研修」開催要項

I. 日時

1. 基礎編：平成 30 年 7 月 7 日（土） 予定
2. 実践編：平成 30 年 9 月～11 月 計 3 回

II. 会場

兵庫県立こども病院 講堂

〒650-0047 兵庫県神戸市中央区港島南町 1 丁目 6-7

III. 目的

1. 小児がん看護に必要な基本的知識を習得し、主体的に実践できる人材を育成する。
2. 近畿ブロックにおいて小児がん看護の連携を強化する。

IV. 対象

*基礎編

1. 院内ラダー I～II 程度の看護師で受講を希望するもの
2. 兵庫県下の連携病院、訪問看護ステーションの看護師
3. 近畿ブロックの小児がんを診療する病院（拠点病院を含む）の看護師
4. 兵庫県下のがん相談員、教員

*実践編

1. 院内ラダー I～IV の全ての看護師で受講を希望するもの
- 2～4 上記と同様

V. テーマおよび内容

別紙プログラム参照

VI. 参加費

無料（交通費、昼食代は自己負担）

VII. 申込み方法

別紙申し込み用紙または、必要事項を明記の上 FAX もしくはメール（携帯メールは不可）でお申込みください。

基礎編、実践編①②③それぞれの申し込みの受付とします。

【応募期間】 基礎編：5 月 1 日～6 月 30 日

実践編：5 月 1 日～8 月 31 日

VIII. 研修担当者

看護部、相談支援室、緩和ケアチーム主催

担当：看護部次長 谷本江利子

小児看護専門看護師・がん相談員 中谷 扶美